

(12) 不登校支援研究会

会 長 中平 泰史 (具同小学校)
副会長 中山 加奈江 (具同小学校)
事務局 山岡 紗矢 (県立中村中学校)

1. 研究主題 「 不登校支援の在り方について 」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和7年 5月7日 (水)	四万十市教育研究会 組織総会 内容：役員選出、研究主題設定、年間計画	中村中学校	
令和7年 8月1日 (金)	四万十市教育研究会 夏期研修会 内容：ガイドラインを活用した不登校支援 講師：人権教育・児童生徒課 澤田創 指導主事	中村中学校	12名

3. 活動内容

四万十市教育研究会 夏期研修会 8月1日 (金)

講義「ガイドラインを活用した不登校支援～誰ひとり取り残されない学びの保証～」

講義

澤田創指導主事による講義では、「高知家の子どもたちが誰一人取り残されない学びを保障するためのガイドライン」を活用した不登校支援について学んだ。不登校未然防止のための魅力ある学校づくりのほか高知県の不登校の状況なども知ることができた。



グループワーク

① 各校の現状の共有

- ・不登校と別室登校の実態
- ・各校の対応方法、効果があったことなど
- ・きもちメーターの活用方法

② 事例検討

2つの事例について、グループに分かれ、考えられる支援方法の案を出し合った。また、支援方法について澤田指導主事からも助言を頂くことができた。

4. 今年度の成果と課題

成果

- 不登校支援で有効だった多くの手立てを知ることができた。
- グループワークでは、各自が学校の現状と課題を出し合いながら意見交換ができた。率直な意見交換ができてよかったと思う。
- 「高知家の子どもたちが誰一人取り残されない学びを保障するためのガイドライン」の内容を詳しく学ぶことができた。
- 各校の不登校や別室登校の実態について共有する中で、児童との接し方について、児童と約束を取り決めたり、カードを使って自己決定させたりなど様々な接し方について勉強することができた。
- 講義では、家庭の事情やその子どもの体調を考慮したうえで、児童一人ひとりに合った対応の仕方で接していくことが大事だということが分かった。
- 普段共有することができない、近隣校の不登校の状況を知ることができ、困り感や効果があったことを話し合うことができてとてもよかった。
- きもちメーターについて、学校全体の取り組みにするための手立てを聞くことができて参考になった。
- 卒業生の現状を知り、改めて小中連携の必要さを感じた。
- 事例検討をする中で、各校の実態にも触れることができ、四万十市内の不登校児童の傾向についてもつかむことができた。

課題

- きもちメーターの活用の仕方がまちまちなので、今回の講義や質疑応答で学んだことを実践していきたい。
- 支援方法が難しいと改めて感じた。不登校の児童生徒一人ひとりと真剣に向き合うことはもちろんですが、支援方法を考えた時にその子との信頼関係があって成り立つものなのかなと思った。誰もがその支援方法がうまくいくわけではないと考えると難しい課題が多いと感じた。
- 不登校の解決策に近道はなく、長期戦になることが多い。その間に担任はもちろん、学校も変わる。関わったものは不完全燃焼で終わることが多く、心の奥底でしこりとなっている。明るい兆しが見えた児童生徒についてその後の情報が入ると、その時の取り組みを振り返ることができ、また改善のきっかけなどを知ることができると思われる。